

## 調査委員会における調査研究報告書

教科名（音楽【器楽合奏】）

調査研究の観点	所 見		
	発行者（教育出版） 発行者番号（17）	発行者（教育芸術社） 発行者番号（27）	発行者（ ） 発行者番号（ ）
1 内容	<p>①洋楽器（リコーダー、ギター）及び和楽器（箏、三味線、和太鼓、篠笛、尺八）を扱っている。打楽器は巻末に1ページのみ。</p> <p>②リコーダーの章で、楽器の手入れ方法について扱っていない。また、基本的にアルトリコーダーの楽譜が掲載されている。</p> <p>③ギターの章で、タブ譜を扱っている。また、扱うコードは、「E、Am、E7、Dm」となっている。（Key:Am）</p> <p>④箏の章で、箏と琴の違いについて記述がない。また、扱っている奏法は、押し手、裏連、割り爪となっている。</p> <p>⑤三味線の章で、糸と駒のつけ方の解説がある。また、奏法は基本奏法に加え、スクイ、ハジキ、打ち指を扱っている。</p> <p>⑥和太鼓の章で、基本の正対がまえの他、横対がまえ、右片がまえ、斜対がまえ、田楽がまえを扱っている。</p> <p>⑦楽器に対する理解を深める内容として、吹く楽器、弾く楽器をそれぞれ、洋楽器と和楽器、世界の民族楽器を比較する内容を扱っている。また、各楽器の演奏家の言葉を紹介している。</p>	<p>①洋楽器（リコーダー、ギター）及び和楽器（箏、三味線、和太鼓、篠笛、尺八）に加え、打楽器を扱っている。</p> <p>②リコーダーの章で、楽器の手入れ方法について扱っている。また、アルト、ソプラノ両方の楽譜が掲載されている。</p> <p>③ギターの章で、タブ譜を扱っていない。また、扱うコードは、「G、D、Em、C」となっている。（Key:C）</p> <p>④箏の章で、箏と琴の違いについて記述がある。また、扱っている奏法は、かき爪、割り爪、押し手、押し放、引き色、合わせ爪となっている。</p> <p>⑤三味線の章で、糸と駒のつけ方の解説がない。また、奏法は基本奏法のみとなっている。</p> <p>⑥和太鼓の章で、奏法については基本の構えと打ち方のみとなっている。</p> <p>⑦楽器に対する理解を深める内容として、各楽器の演奏スタイルや種類を紹介する内容を楽器ごとに扱っている。また、各楽器の演奏家の言葉を紹介している。</p>	
2 構成・分量	<p>①全学年99ページで構成されている。</p> <p>②吹く楽器（リコーダー、篠笛、尺八）、弾く楽器（ギター、箏、三味線）、和太鼓で構成されている。</p> <p>③楽器の学習と、様々な曲の楽譜やアンサンブル資料という構成になっている。</p> <p>④箏の学習では、五線譜と伝統の縦譜が併記されている。</p> <p>⑤34曲を取り扱っている。</p> <p>⑥記載の楽譜に、歌唱や鑑賞の学習曲とのつながりがある。</p>	<p>①全学年107ページで構成されている。</p> <p>②洋楽器（リコーダー、ギター）、和楽器（箏、三味線、和太鼓、篠笛、尺八）、打楽器で構成されている。</p> <p>③楽器の学習の中にアンサンブルの楽譜が含まれている。</p> <p>④箏の発展的な学習曲が縦譜のみである。</p> <p>⑤27曲を取り扱っている。</p> <p>⑥歌唱や鑑賞の学習とつながりのある曲の記載が少なく、J-POPなどの有名曲の楽譜が記載されている。</p>	
3 表記・表現	<p>①三つの柱については、主要教材についての表記があるが、全曲に渡っての表記はない。</p> <p>②各楽器の最初のページに参考曲の紹介がない。</p> <p>③篠笛・尺八・箏・三味線・太鼓・ギターの写真と奏法についての拡大写真が掲載されている。</p> <p>④巻頭の写真で楽器が紹介されているが種類が少ない。</p>	<p>①三つの柱については、全教材に渡って表記がある。</p> <p>②各楽器の最初のページに参考曲の紹介がある。</p> <p>③篠笛・尺八・箏・三味線・太鼓・ギターの写真が掲載されているが、拡大写真は少ない。</p> <p>④巻末の写真で多くの種類の楽器が紹介されている。</p>	
4 使用上の便宜	<p>①「まなびリンク」というウェブサイトを開設しており、教科書の内容にリンクした動画、音声、ワークシートを利用できるようになっている。</p> <p>②目次の他に、学習内容やめあてを領域ごとに整理したページがない。</p> <p>③巻末の折り込みに、リコーダーとギターの運指表がある。</p> <p>④箏の楽譜が載っているため、五線譜と比較ができるようになっている。</p> <p>⑤それぞれの楽器の奏法について、写真やイラストで説明されている。</p> <p>⑥楽器の共通性と固有性を考え、特徴を理解し話し合う協働的学習を展開するページがある。</p>	<p>①ウェブサイトを開設しており、教科書の内容にリンクした動画、音声、ワークシートを利用できるようになっている。</p> <p>②目次の他に、学習内容やめあてを領域ごとに整理したページがある。</p> <p>③巻末にリコーダーとギターの運指表がある。</p> <p>④箏の楽譜が載っているため、五線譜と比較ができるようになっている。</p> <p>⑤それぞれの楽器の奏法について、写真やイラストで説明されている。</p> <p>⑥主体的・対話的で深い学びが実現できるよう、協働的な学習の場面が設けられている。</p>	